

Culture
Vision
Japan

一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン 活動事例

2022.6

【財団概要】

名称: 一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン <http://cvj.or.jp/>

活動開始: 2014年4月1日 (2015年4月1日に一般財団法人化)

【設立趣旨】

当法人は、「文化・芸術国日本」の実現に向けた取り組みを、産官学が連携して、長期的な視点に立って戦略的に行うことを目的として設立されました。

Culture Vision Japan (CVJ) とは

CVJは、クリエイターと産官学の垣根を超えた共創の場です

(CVJ is a leading hub for cross-sector partnerships between creators, government, industry, and academia.)

ヴィジョン

クリエイティブと産業・行政・学術が相互に刺激し合い、新たな価値を共創する社会を創造します

ミッション

- 文化・アート・デザインといったクリエイティブ、産業・行政・学術のメンバーが集うプラットフォームとして、価値共創のモデルを次々に創出します
- 産業・行政・学術のメンバーが、クリエイティブの力を、新たな事業価値・競争優位に昇華させる取り組みを次々に実施します
- これらの活動を通じて、クリエイティブの持続的発展に貢献します

理事

財団運営の基本方針の決定と承認

- 増田 宗昭(会長) カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役社長
- 大西 洋(副会長) 日本空港ビルデング株式会社 取締役副社長 執行役員
- 井上 智治 (代表理事・理事長) 一般財団法人大川ドリーム基金 理事長、株式会社美術出版社 取締役会長
- 川邊 健太郎 Zホールディングス株式会社 代表取締役社長 Co-CEO
- 近藤 誠一 近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官
- 迫本 淳一 松竹株式会社 代表取締役社長
- 高橋 弘行 東日本旅客鉄道株式会社 常務執行役員
- 谷澤 淳一 三菱地所株式会社 代表執行役 執行役副社長
- 中村 公大 山九株式会社 代表取締役社長
- 山口 信之 株式会社ドウ・クリエーション 代表取締役

(敬称略、五十音順)

理事会社

- 一般財団法人大川ドリーム基金
- カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
- 山九株式会社
- 松竹株式会社
- 株式会社ドウ・クリエーション
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 三菱地所株式会社

幹事会社

- アーク証券株式会社
- 株式会社アルビオン
- テクマトリックス株式会社
- 日本航空株式会社
- 野村ホールディングス株式会社
- 株式会社羽田未来総合研究所
- 株式会社ホッピーミーナ
- 三井不動産株式会社
- 森ビル株式会社

アドバイザー

財団の活動に対するクリエイター・アーティスト(文化関係者)の視点からのアドバイス

- 阿部 千登勢 デザイナー / 株式会社サカイスラッシュ 代表取締役 (敬称略、五十音順)
- 生駒 芳子 ファッションジャーナリスト / アートプロデューサー
- 猪子 寿之 ウルトラテクノロジスト集団 チームラボ代表
- 落合 陽一 メディアアーティスト
- 後藤 繁雄 編集者 / クリエイティブディレクター / 京都造形芸術大学教授 / G/Pgallery ディレクター
- 小西 利行 POOL inc. Founder / Copy Writer / Creative Director
- 小橋 賢児 The Human Miracle株式会社 代表取締役 / クリエイティブディレクター
- 齋藤 精一 クリエイティブディレクター / パノラマティクス 主宰
- 笹岡 隆甫 華道「未生流笹岡」家元
- 妹島 和世 建築家 / 横浜国立大学大学院Y-GSA教授 / ミラノ工科大学教授 / 日本女子大学客員教授
- 舘鼻 則孝 アーティスト
- 谷川 じゅんじ スペースコンポーザー / JTQ株式会社代表
- 田根 剛 建築家 / Atelier Tsuyoshi Tane Architects 代表
- 永山 祐子 建築家
- 名和 晃平 彫刻家 / SANDWICHディレクター / 京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授
- 南條 史生 森美術館 特別顧問
- 蜷川 実花 アーティスト
- 長谷川 祐子 金沢21世紀美術館 館長 / 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授
- 林 千晶 株式会社ロフトワーク 共同創業者 取締役会長
- 平尾 香世子 株式会社HiRAO INC 代表取締役社長
- 水口 哲也 エンハンス 代表 / エッジ・オブ 共同創業者

1. 2016年10月

1-1 日本政府主催国際会議「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム(WFSC)」の支援事業

1-2 WFSC政府認定協賛イベント 財団主催アフターディナーパーティ「Culture Vision Tokyo」の開催

2. 2017年11月

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会共催 文化オリンピックアードナイトの実施

3. 2018年10月

新宿御苑 OPEN PARK プロジェクト・2日間開催

4. 2019年3月

大丸有まちづくり協議会設立30周年記念シンポジウム アートトークセッション共催

5. 2019年8月～9月

ICOM京都大会との連携:「時を超える:美の基準」展の開催

6. 2019年12月～2020年3月

文化庁 文化経済戦略推進事業

7. 2020年8月

高輪ゲートウェイ仮囲いアートプロジェクト JR EAST meets ART @Takanawa Gateway Fest

8. 2020年8月、2021年8月

東京藝術大学連携事業 連携講座

9. 2020年11月、2021年5月、2021年7月、2021年12月

<文化×経済> 美術展 特別鑑賞ツアー

10. 2021年11月

ART COLLABORATION KYOTO

1-1. 日本政府主催国際会議「スポーツ・文化・ワールドフォーラム(WFSC)」の支援事業(1/2)

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムとは

ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021と、3年連続で開催されるスポーツの国際イベントを控え、日本は大きく飛躍する時を迎えています。2016年10月、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」が開催され、スポーツと文化とビジネスを柱に、これからの日本が世界と共に創り上げる有形・無形のレガシーについて話し合われました。

■主催・共催・協力

主催: 文部科学省 スポーツ庁 文化庁 / 共催: 京都府 京都市 日本財団 ETIC / 協力: 世界経済フォーラム (ダボス若手メンバーの会議Young Global Leaders 年次総会も同時開催)。

■参加者

国内外のスポーツ・文化担当大臣、国際的振興団体のトップ、グローバル企業の経営トップ、世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー、著名研究者および国内外主要経済メディア等、延べ約7,500名。

■スポーツ・文化・ワールド・フォーラム プログラム概要

<京都会場 2016年10月19日(水)～20日(木)>

●京都オープニング (文部科学副大臣、京都府知事、京都市長、京都商工会議所会頭)

●文化会議 全体会 (オリンピック文化遺産財団理事長 他) / 分科会

●文化イベント: カルチャー・ヴィジョン・ジャパンで募集・取りまとめをした企画(次ページに詳細記載)

●文化体験プログラム

<東京会場 2016年10月20日(木)～22日(土)>

●東京プレナリー・基調講演・官民パネル (挨拶・基調講演: 内閣総理大臣ビデオメッセージ、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長、IOC会長、IPC会長、ワールドラグビー会長、世界経済フォーラム創設者・会長)

●スポーツセッション

・ラグビーの魅力・ラグビーワールドカップの力 ・オリンピック・パラリンピックがもたらすレガシー 等

●スポーツ大臣会合・Sport for Tomorrow

●文化イベント: カルチャー・ヴィジョン・ジャパンで募集・取りまとめをした企画(次ページに詳細記載)

●文化会議 分科会

●ユースプログラム

1-1. 「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム (WFSC)」の文化プログラム提案・採用 (2/2)

文化プログラムについて、CVJのメンバーからアイデアを募集。多数のトップクリエイターから提案された企画を取りまとめし調整の上、文科省に提出。その結果、2つのメイン会場(京都・東京)共に、CVJが調整した企画が採用された。



10月20日東京会場
「The Land of the Rising Sun」
演出: 宮本亜門

子どもから大人まで惹きつけてやまないデジタルアート作品を数々生み出す猪子寿之率いるチームラボや、江戸部分のヴィジュアル協力に蜷川実花をむかえ、ジャンルを越えたトップクリエイターの文化芸能が集結。
出演は古典を表現する歌舞伎俳優の十一代目 市川海老蔵とソプラノ森麻季、他。新進気鋭のクリエイター陣と豪華キャストがあわさり、時代を越えて“今”の日本を表現。

Youtubeより

文化庁HPより

10月19日京都会場
「The Oriental Opera」(世界遺産 二条城にて)
川井郁子ヴァイオリンコンサート
二の丸御殿台所で、世界遺産の空間に、西洋のヴァイオリンと東洋の尺八や和太鼓などの和楽器で紡ぐオリエンタルで幻想的な音色が響きわたった。



1-2. スポーツ・文化・ワールドフォーラム政府認定協賛イベント 財団主催アフターディナーパーティ「Culture Vision Tokyo」開催 (1/3)

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の開催を好機ととらえ、政府認定協賛イベント*として、2016年10月20日に、CVJ主催の“Culture Vision Tokyo”を開催。次世代を見据えるトップクリエイターやアーティスト、産官学のトップリーダーと「2020東京に向けた文化のキックオフ」として、CVJの活動を体現するイベントを作り上げた。

キーワードは「TOKYOの創造力」。CVJのビジョンに共感する、伝統から現代アート、美術から音楽といった幅広い分野のトップアーティスト・クリエイター達が、東京を象徴する夜景をバックに、東京の文化を凝縮した“CVJならではの”のインスタレーションアート展示・パフォーマンスを展開。それぞれのフィールドから集まった方々に、キュレーションされたドリンク・フードを提供し、一夜限りのここでしかない、ジャンルを超えた社交場を提供した。

同時期に開催の、WEFのヤング・グローバル・リーダーズ年次総会や、国際シンポジウムのイノベティブ・シティ・フォーラム登壇者を含む、のべ1500人強が参加。

*政府認定協賛イベント(イベントを実施する団体が文部科学省と密接に連携し、お互いに成功を目指し、同じ時期に同じ場所で開催するイベント): Innovative City Forum、六本木アートナイト2016、上野「文化の杜」<TOKYO数奇フェス>、次世代共創ワークショップ

【日時】

2016年10月20日(木)20時～26時

(一部エリアは18時半開場)

【場所】

六本木ヒルズ52階 TOKYO CITY VIEW

【ディレクター】

エグゼクティブディレクター: 南條史生

総合ディレクター: 谷川じゅんじ

【参加クリエイター/アーティスト】

猪子寿之 (teamLab)

齋藤精一 (ライゾマティクス)

名和晃平

蜷川実花

笹岡隆甫

ヴィジュアルデザインスタジオWOW

NON-GRID

【参加者 のべ1500人】

- ・国内外のトップクリエイター、
- ・ビジネスリーダー
- ・行政・パブリックリーダー
- ・スポーツ・文化・ワールド・フォーラム参加のリーダー
- ・Young Global Leaders * 等

* Young Global Leaders とは

世界経済フォーラムは2005年、「Global Leaders of Tomorrow」の後継としてヤング・グローバル・リーダーズのコミュニティを立ち上げた。このコミュニティには、多種多様な専門分野やセクターに携わる40歳以下のリーダーが世界中から集まっている。ヤング・グローバル・リーダーズは「2030イニシアティブ」、すなわち2030年に世界がどうあってほしいかというビジョンへの到達方法を定めた行動計画の策定に取り組んでいる。日本からの受賞者例: 2010年中田英寿、2011年小泉進次郎(衆議院議員)、山崎直子(宇宙飛行士)、2012年小林りん(ISAK代表理事)、2014年南総一郎(ビズリーチ代表取締役社長)など (ウェブ検索より)

1-2. Culture Vision Tokyo～2020 cultural kick-off～当日の風景 (2/3)

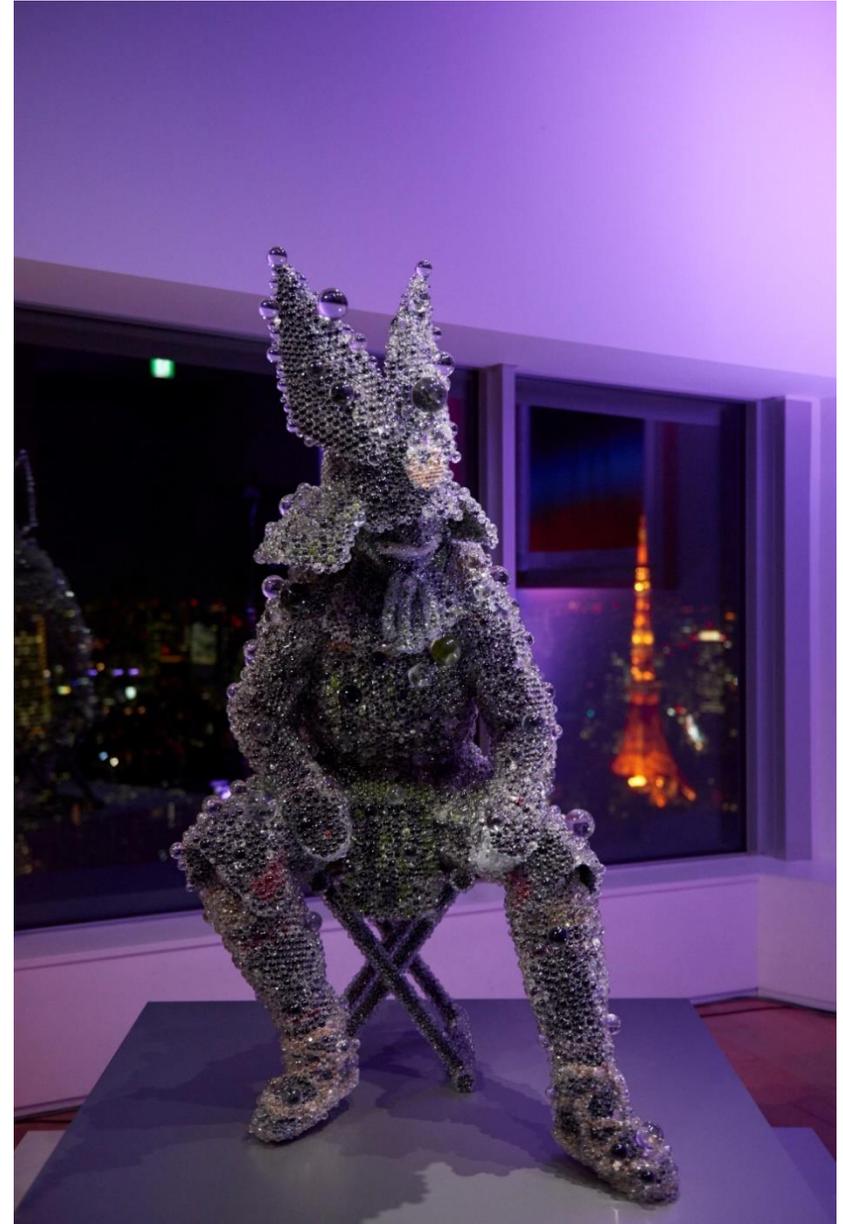
<「桜」 蜷川実花>



<「いけばな」 笹岡隆甫>



<「PixCell-Armor」 名和晃平>



1-2. Culture Vision Tokyo～2020 cultural kick-off～当日の風景 (3/3)

<「wind form_03」 WOW>



<「TOKYO道中」 演出: 蜷川実花 / Rhizomatiks Architecture >



<「Black Waves」 teamLab>



<「TOKYO NIGHT CIRCLE」 Rhizomatiks Architecture
音楽監修: VERBAL (m-flo / PKCZ®) / VJ: COSMIC LAB >



2. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会共催 文化オリンピックアードナイト (1/2)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催まで約1000日となった2017年秋、大会組織委員会と共催で、文化イベント「文化オリンピックアードナイト」を開催。

「スポーツの祭典」のみならず「文化の祭典」でもあるオリンピック・パラリンピックに向けて、東京とはじめ全国各地で数多くの創造的で歴史に残るような文化プログラムが実施されることが期待されており、本企画は、世界に日本文化の魅力が最大限に発信される一つの契機として企画・実施された。

東京の玄関口であり国内外から様々な人々が集まる行幸通りを会場に、多くのアーティストと被災地からの学生合唱団で作り上げるALL JAPANをテーマとした舞台は、結果、多数のメディアに取り上げられ「文化オリンピックアード(オリンピック・パラリンピックの文化プログラム)」の盛り上がりにも貢献した。

■主催

●公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

●文化オリンピックアードナイト実行委員会

構成団体

一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン

野村ホールディングス株式会社、全日本空輸株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、

J X T G エネルギー株式会社、アサヒビール株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、セコム株式会社、

アシックスジャパン株式会社、キッコーマン株式会社、K N T - C T ホールディングス株式会社、三菱電機株式会社

■概要

日時：2017年11月26日（日）17時30分開場、18時30分～20時00分

会場：東京駅前 行幸通り

内容：

第一部：Tokyo2020 DIALOGUE（オリ・パラの文化プログラムをテーマにしたトークセッション）

【出演】モデレーター：宮本 亜門、市川 海老蔵、澤邊 芳明、草刈 民代

第二部：Tokyo2020 ALL JAPAN CONCERT（ALL JAPAN”を掲げ、被災地を「音楽で繋ぐ」コンサート）

【指揮】岩村 力 【演奏】東京ニューシティ管弦楽団 【出演】宮本 笑里（ヴァイオリニスト）、MIYAVI（ミュージシャン）、森谷 真理（ソプラノ歌手）、鈴木瑛美子（ゴスペル歌手）、上田秀一郎（太鼓奏者）、はせ みきた（太鼓奏者）、大前 光市（義足ダンサー）ゆず（ミュージシャン）、福島県立福島明成高等学校 合唱部、宮城県石巻好文館高等学校 音楽部、東京都立 狛江高等学校 ダンス部

全体MC：SHELLY

来場者数 500名

2. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会共催 文化オリンピアードナイト (2/2)

Tokyo2020 ALL JAPAN CONCERT



3. 新宿御苑 OPEN PARK プロジェクト・2日間開催 (1/3)

これまで利用が限定的だった新宿御苑の活用を通じて、2020年とその先に多様な場所が効果的に活用されるレガシーを作ることを目指し、夜間の新宿御苑を光と音のインスタレーションを楽しみながら回遊できるイベントを2日間開催。1日目を内閣官房「オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査」事業、2日目を民間企業の協賛事業として実施。

【会場】 新宿御苑
【主催】 新宿御苑・OPEN PARK プロジェクト実行委員会(※)
(一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン、株式会社ライゾマティクス)
【日時】 2018年10月12日(金)-13日(土) / 18:00-21:00

12日(金)「GYOEN ART NIGHT WALK 新宿御苑 夜歩(よあるき)」

- ・参加者数 約6,000名
- ・内閣官房「オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査」事業、beyond2020事業
- ・アートを眺めながらのウォーキング、若手クリエイターの作品展示・パラスポーツ体験会を実施
- ・CVJ関係者懇親会を外部会場にて実施
(産官学の識者・トップクリエイター、約200名が参加)

【協力】 一般財団法人大川ドリーム基金、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、ヤフー株式会社、株式会社アミューズ、KNT-CTホールディングス株式会社、株式会社JTBコミュニケーションデザイン、松竹株式会社、日本航空株式会社、野村ホールディングス株式会社、株式会社羽田未来総合研究所、東日本旅客鉄道株式会社、三井不動産株式会社、森ビル株式会社

【提供】 サントリーホールディングス株式会社

【特別協力】 新宿御苑管理事務所

【後援】 新宿区

13日(土)「新宿御苑 AFTER DARK」

- ・参加者数 約5,000名
- ・beyond2020事業
- ・アートを眺めながらのランニング、芝生エリアでのヨガ・ダンス等プログラムを実施

【協賛】 ナイキジャパン

【協力】 新宿御苑管理事務所

【後援】 新宿区

(※)新宿御苑 OPEN PARK プロジェクトとは

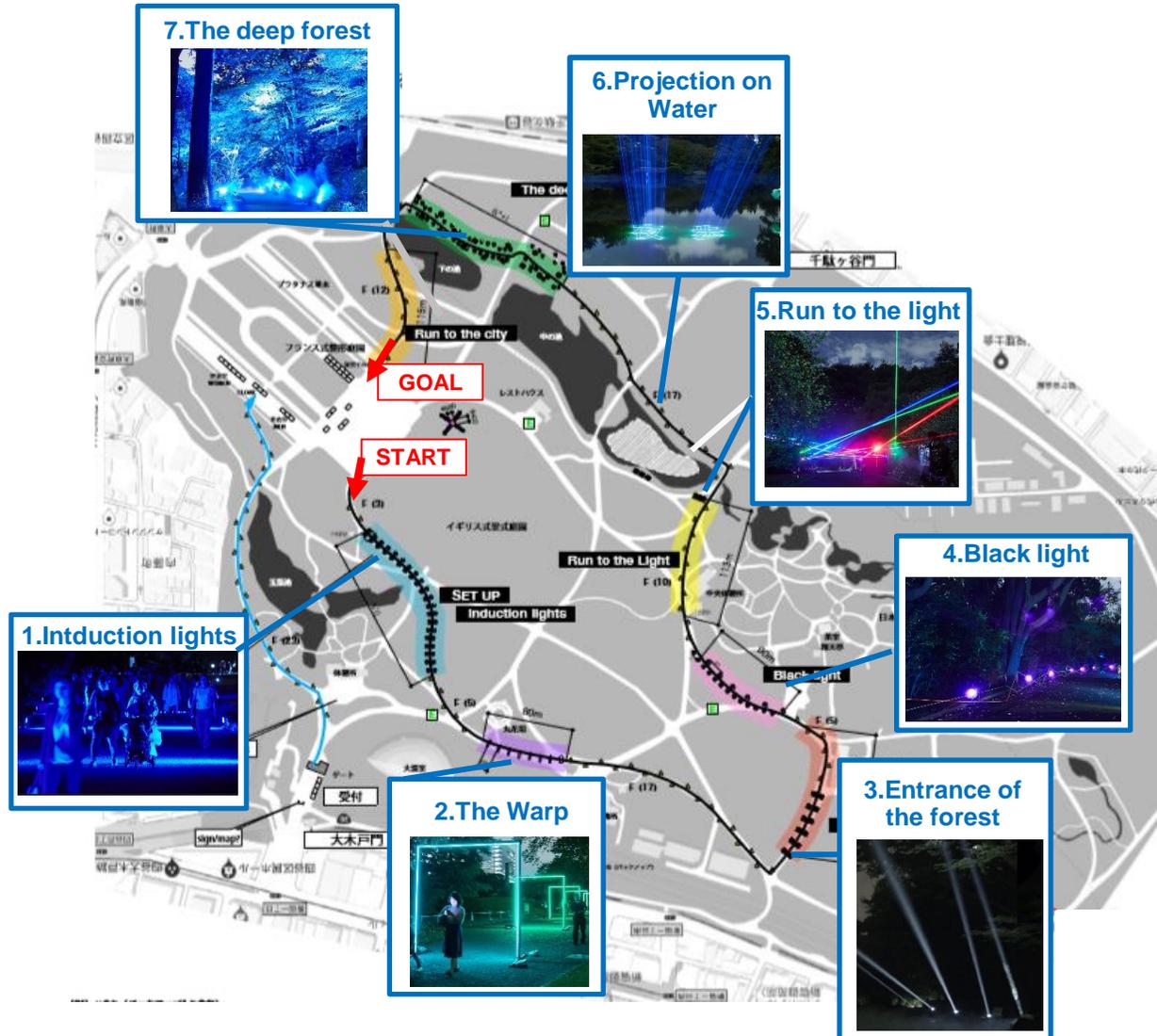
一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパンと株式会社ライゾマティクスが推進するプロジェクト。

東京の中心に位置する新宿御苑は、日本の歴史を感じさせる場所であるとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック会場の新国立競技場に連なるエリアにあります。ここを日本文化発信の拠点として、多くの方に楽しんでもらえる空間を作るとともに未来を見つめ日本の文化の力を考える機会を創出します。

3. 12日「GYOEN ART NIGHT WALK 新宿御苑 夜歩」(2/3)

回遊コース(1.7km)

コンテンツ概要



1. Induction lights
100M以上の空間に滑走路のような演出

2. The Warp
連続する光の造作を通り抜けると、時間の概念を越えてワープしたかのように感じる

3. Entrance of the forest
指向性の強いムービングライトとレーザーにより異空間の入り口が出現

4. Black light
ブラックライトで照らし出された糸に沿って走ることができる空間

5. Run to the Light
真っ暗な公園に突如現れる太陽の様に強いライトに向かう

6. Projection on Water
レーザーを使って池の表面に「夜歩」「NIGHT」「WALK」の光を映し出す

7. The deep forest
光とミスト(霧)によって森の様相が様変わりし、幻想的な世界が広がっている

3. 12日「GYOEN ART NIGHT WALK 新宿御苑 夜歩」(3/3)

2.The Warp



3.Entrance of the forest



5.Run to the Light



6.Projection on Water



4. 大丸有まちづくり協議会設立30周年記念シンポジウム アートトークセッション共催

大丸有(大手町・丸の内・有楽町)まちづくり協議会が、設立30周年を記念して主催するシンポジウム内で「ART×AREA VITALIZATION」をテーマとしたトークセッションを共催。豪華な登壇者が話題となり、多数のトークセッションの中で大変注目の企画となった。また、シンポジウム後に完全招待制で開催された懇親会では、当エリアにオフィスを構える多くの企業の役職者が参加する中で、新進気鋭のアーティスト Open Reel Ensembleのパフォーマンスを実現。「大丸有まちづくり協議会に、これまでにないエネルギーで全く新しい文化の風を吹かせた」との高い評価のもと、終了。

■ 概要

大丸有地区まちづくり協議会設立30周年記念シンポジウム

トークセッション共催

日時：2019年3月26日(火)
場所：東京商工会議所ホール&コンファレンス
テーマ：ART×AREA VITALIZATION
「未来の都市のつながりとクリエイティビティ」
登壇者：杉本博司氏、川村元気氏、後藤繁雄氏

懇親会

和田永氏が所属するOpen Reel Ensembleによるパフォーマンス

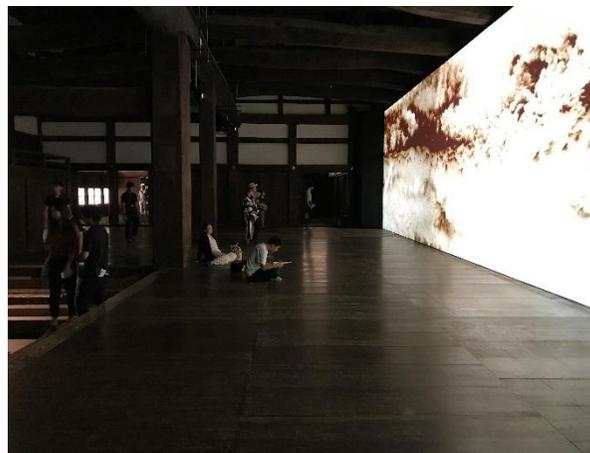


5. ICOM京都大会との連携 (1/2)

世界最大の博物館ネットワーク「ICOM(国際博物館会議)」の、3年に一度の国際会議が2019年9月1日～7日に日本で初めて京都で開催され、世界141か国、約4,200名以上の美術館・博物館関係者が参加された。

日本の文化芸術のプレゼンスを海外に発信するため、この国際会議の開催に合わせて、元離宮二条城、二の丸御殿台所・御清所にて「時を超える:美の基準」展を開催し、4日間の一般会期で5,085名(うち1,476名が海外の方)もの方にご来場いただいた。また、博物館・美術館のオピニオンリーダーである、ICOM京都大会参加者向けのおもてなしとして、9月3日に京都市・京都市教育委員会と連携して二条城で開催されるソーシャルイベントに約3,800名もの方にご来城になり、うち1,200名強のICOM出席者に本展覧会をご覧いただいた。

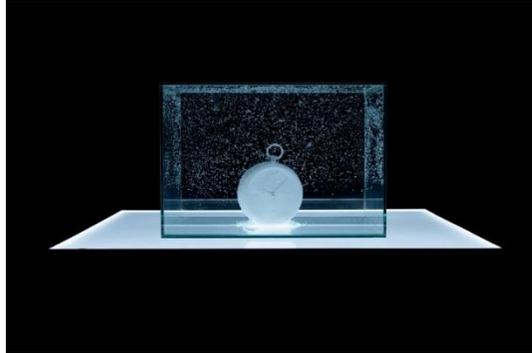
展覧会名	「時を超える:美の基準 Throughout Time: The Sense of Beauty」
展覧会会期	2019年8月31日(土)－9月3日(火)
場所	元離宮二条城(二の丸御殿台所、御清所 [重要文化財])
ソーシャルイベント	2019年9月3日(火) VIPレセプション 18:00－19:00 / ICOM参加者向け 19:30-21:00
主催	CVJ・細見美術館・京都市・京都市教育委員会・京都市内博物館施設連絡協議会 (博物館・美術館の海外発信機能強化プロジェクト実行委員会)
展示作家	青木美歌、小林且典、白石由子/白石かずこ、須田悦弘、チームラボ、名和晃平、西川勝人、ミヤケマイ、宮永愛子、向山喜章



5. ICOM京都大会との連携 展示作品 (2/2)



青木美歌 煙庭



宮永愛子 夜に降る景色—時計—



向山喜章 ヴェンダータ53-薫風
ヴェンダータ11-光明
ヴェンダータ11-月影



チームラボ □命は□命の□で□きている



名和晃平 白木良(プログラム)、原摩利彦(サウンドスケープ) Tornscape



名和晃平 PixzCell-Deer#60



ミヤケマイ 誰が袖

6. 文化庁 文化経済戦略推進事業 (1/4)

概要・目的

「文化」と「経済」の関係を積極的に捉え、文化と産業等他分野が一体となって新たな価値を創出し、創出された価値が、新たな創造等に対して効果的に再投資される「文化と経済の好循環」の実現に向け、文産官の議論の場から生まれた、特に文化・芸術の社会的・経済的価値を増大させる可能性が高いテーマを選定し、先行的に実証実験を行い、本格実施に向けた課題把握や効果検証等を行う「文化経済戦略推進事業」の実施が文化庁にて決定した。

CVJは産官学アーティスト・クリエイターが垣根を越えて協働する団体として、文化と経済が相互に持続的に好影響を与えあう社会を創造する一助となるべく、本案件の実施業務を受託。他団体(経済同友会・個別企業・アートの専門団体・美術館等)と連携して、実務を遂行し、実証事業の結果と調査内容を報告書にまとめた。

受託事業の内容

具体的には、文化投資の前段階として、より多くの企業が文化への関心を持つきっかけを創出するため、以下の実証事業1、2を実施。また、課題の洗い出しや既存事例の抽出を主な目的とし、3.文化経済推進委員会の運営・事例調査等を行い、来年度以降の継続も視野に入れて報告書を作成・提出。

1. アーティストとの交流が企業にもたらす好影響を創出する「Artist In the Office」の実証事業
2. 文化を源泉としたビジネス課題解決及びコミュニティを創出する「Culture Thinking Tour」の実証事業
3. 文化芸術界・経済界からの有識者を構成員とした文化経済推進委員会の実施
アート・ビジネス(企業経営)事例の調査(ヒアリング・デスクトップ調査)

文化経済推進委員会

座長： 青柳正規 東京大学名誉教授

座長代理： 井上智治 一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン代表理事

委員： 南條史生 森美術館 特別顧問、秋元雄史 東京芸術大学大学美術館館長・教授

秋田正紀 松屋代表取締役社長、大西洋 日本空港ビルデング取締役副社長、北原義一 三井不動産代表取締役副社長、

阪本未来子 東日本旅客鉄道常務執行役員、増田宗昭 カルチュア・コンビニエンス・クラブ代表取締役社長兼CEO

6. 文化庁 文化経済戦略推進事業 Artist in the Office 三菱地所株式会社 (2/4)

多くの社員・来訪者が利用する本社カフェテリアで、アーティストが滞在制作を行い、アーティストと企業の交流を通じて、楽しみながらクリエイティブな口を養い、継続的な口交流により経済発展につながる新しいロールモデルを模索。アーティストの活動にインスピレーションを得て、企業、従業員口が主体的に創造活動を実践することを促すような、企業価値の向上に資するワークプレイスの場となった。

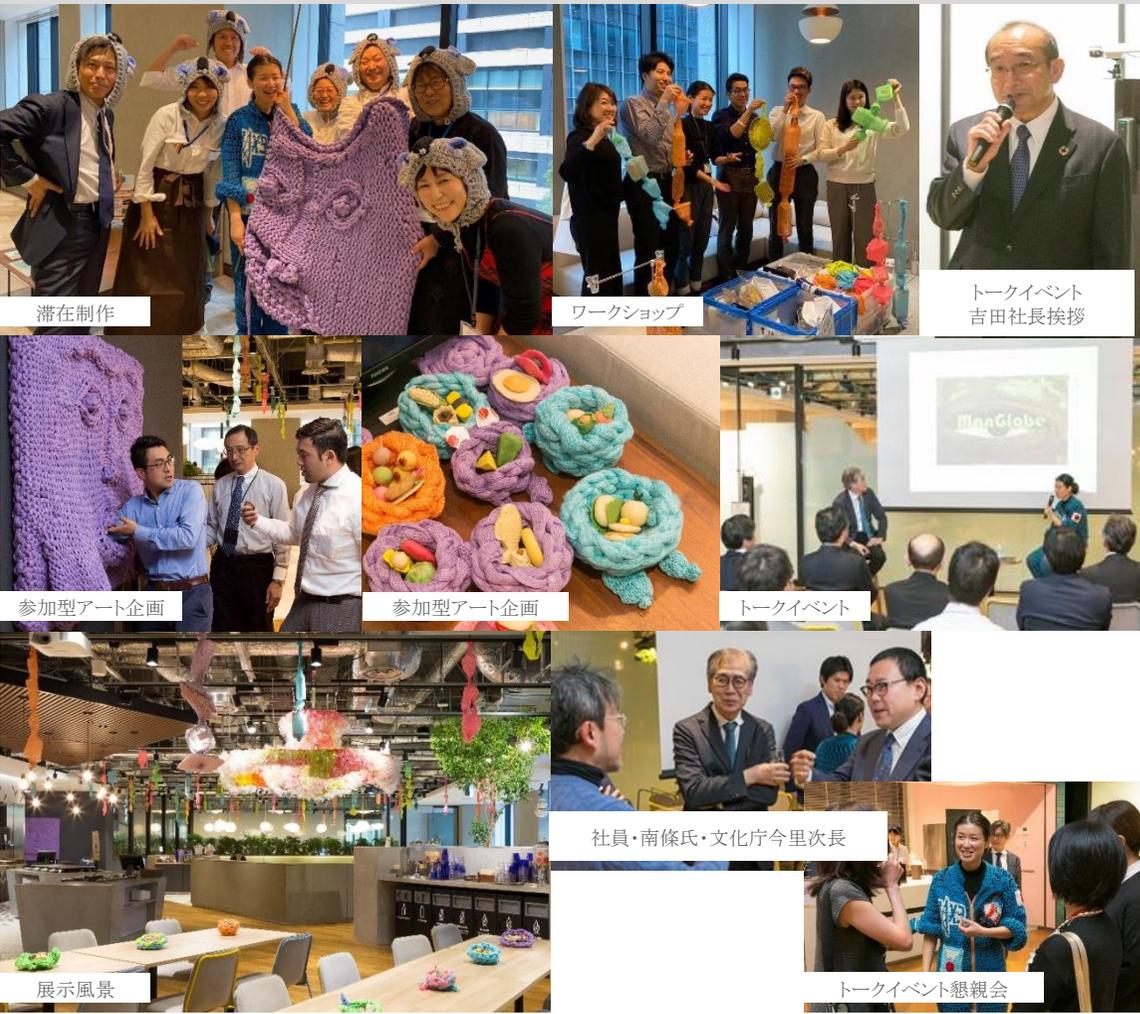
■アーティスト ニット・クリエイター 力石 咲
編み物をコミュニケーションメディアとして捉え、街や空間に関与するインスタレーションやプロジェクトを展開。

①滞在制作 (1月20日～2月10日)
三菱地所・グループ社員が多く訪れるカフェテリアにて、約3週間の滞在制作。

②ワークショップ (社員対象)
1. ニット・ア・ラ・モード 1月22日、24日、27日、29日、31日
筒状のニットに廃プラスチックを詰め込みオブジェを制作するワークショップ (所要時間15分程度、事前予約なし立ち寄り型) 社員がつくったオブジェは後日カフェテリア天井より吊るす形で展示。
2. ニットとプラスチックのシャンデリア 2月3日、5日、7日
ニットを編むワークショップを開催 (所要時間1時間・事前予約制)
カフェテリアの中心に展示する大型作品の一部を制作。

③カフェテリア展示・イベント (2月12日)
滞在制作とワークショップを通して制作した作品をカフェテリア内に展示。
空間を大きく変容させると共に、当日社員の参加により、作品の様子が変容する仕掛けを施したり、カフェテリアでのコラボメニューを展開。

④南條史生・力石咲トークイベント (2月4日)
南條史生氏・力石咲さんによる社員を対象としたトークイベントを開催。
テーマ:『これからの時代の新しい創造性を育む日本のリーディングカンパニーとして、文化と経済が相乗効果を発揮するためにどのような取り組みが有効的か』



滞在制作

ワークショップ

トークイベント
吉田社長挨拶

参加型アート企画

参加型アート企画

トークイベント

展示風景

社員・南條氏・文化庁今里次長

トークイベント懇親会

6. 文化庁 文化経済戦略推進事業 Artist in the Office 野村ホールディングス株式会社 (3/4)

大手町と日本橋の2つの本社ビルにて異なるタイプのアート施策を実施。大手町では、社員に加え、外部の方が来社する際に使用する会議室が並ぶ無機質な空間を、社員とのワークショップを通して制作した作品を通じて温かみのある豊かな空間に変容させた(企業として掲げる「変革と挑戦」をテーマに作家が企画したワークショップを実施)。日本橋では、社員が頻繁に通る、石を多用した重厚な歴史ある空間に、新素材等で制作したモバイルタイプの作品を設置し、鑑賞体験イベントを通して社員とのアートを切り口とした交流を図った。

■大手町本社:アーティスト 田中紗樹

旅先で絵を残す「stay & work」の活動等、異なった日常の中で絵を残す活動を模索し、創作を続ける作家。即興的な面白さ、遊び、コミュニケーションの場を求めて国内外で制作中。

①ワークショップ第一回 (2019年12月17日)

アーティストと社員がともにアート作品を制作するワークショップ「旅するアートの作り方」を開催。様々な部署から20名を超える社員が参加し、自身を解放して行うアート制作を通して、新しい発見やコミュニケーションが生まれるワークショップとなる。

②公開制作 (2019年12月23日・24日)

ワークショップで社員が制作した絵を素材とし、作家が大型の作品を制作する公開制作を実施。

③ワークショップ第二回 (2020年2月21日)

「旅するアート」と題し、展示していた作品を社員と共に分解し、拡散するアートワークショップを企画
→コロナウイルスの関係でイベントは中止となったが、作品を別の形(封筒・ブックカバー・しおり等)に生まれ変わらせ、社員に配布する企画を実施。



アート制作ワークショップ



社員の制作した作品の一部を利用して大型作品を制作



展示場所



作品をカットし、封筒・しおり等に変形させ社員に配布

■日本橋本社:アーティスト 小松宏誠

「鳥」や「羽根」をテーマとした作品を中心とし、「軽さ」「動き」「光」をキーワードに、自然が持つテクノロジーと人間の生み出したテクノロジーが交錯する表現を追求し制作を続ける。

①作品展示 (2019年12月30日～2020年2月末)

②対話型鑑賞・アーティストトークイベント

(2020年1月31日)

様々な部署から約20名の社員が対話型鑑賞を体験。その後、アーティストとの交流の場を設け、社員とアーティスト双方が新たな刺激を得るイベントとなる。



6. 文化庁 文化経済戦略推進事業 Culture Thinking Tour (4/4)

企業の経営層の方々をお招きし、都内美術館 2 か所にて、美術館館長等による解説を受けながらアートを鑑賞頂くツアー とともに、「アートが企業経営やビジネスに与える好影響」等について意見交換を行う懇親会を開催。

懇親会では、民間企業から文化芸術への投資が継続的になされるためのポイントや課題、企業にとって文化の位置づけなど、自由な立場でディスカッションし、参加者の感想や意見を報告書にまとめた。経済同友会の「スポーツとアートの産業化委員会」との連携企画として実施。本委員会の委員を対象に声かけをしたところ、両日ともに定員を超える申込があり抽選となるなど、企業経営層に関心の高いトピックであることが分かった。

■ 第一回「鍋木清方幻の《築地明石町》特別公開」&所蔵作品展 特別鑑賞会

日時:12月3日(火)
開場:ツアー 18時30分～19時30分
懇親会 19時30分～21時頃
会場:ツアー 東京都国立近代美術館
懇親会 同美術館内レストラン ラー・エ・ミクニ
解説者:大谷省吾 美術課長
その他:閉館後に、貸し切りでご案内
参加人数:30名



■ 第二回 未来と芸術展: AI、ロボット、都市、生命 人は明日どう生きるか」特別鑑賞会

日時:12月16日(月)
開場:ツアー 18時30分～19時30分
懇親会 19時30分～21時頃
会場:ツアー 森美術館
懇親会 六本木ヒルズクラブ
解説者:南條史生館長
参加人数:23名



7. 高輪ゲートウェイ駅仮囲いアートプロジェクト JR EAST meets ART @Takanawa Gateway Fest

昨今、新型コロナによる展示の中止・延期等でアーティスト達も大きな被害を受けている。本企画は、大規模再開発エリアであり、9月初旬までの期間限定でイベントスペースとなっているTakanawa Gateway Fest (高輪ゲートウェイ駅直結)の約130mの仮囲いを壮大なキャンパスに、12名の気鋭の作家が「サステナビリティ」「都市」「再開発」をテーマに現地で作品制作を行った。本企画は、「新型コロナ禍における若手アーティスト支援のプロジェクト」、そして、今後の街の開発を視野に「アーティストと街を結びつけるプロジェクト」として、東日本旅客鉄道株式会社とカルチャー・ヴィジョン・ジャパンの共催で実施した。

概要・体制

東日本旅客鉄道株式会社・一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン共催

協力: 日本現代美術商協会 (CADAN)

運営協力: 藤原羽田合同会社

参加アーティスト:

狩野哲郎、坂本和也、佐藤翠、THE COPY TRAVELERS、菅隆紀、田内万里夫、田中秀和、中島崇、NAZE、松下徹、南川史門、リヴァ・クリストフ

実施期間:

制作: 8月11日(火)～16日(日) 夜間 21時～翌11時

展示: 8月18日(火)～9月6日(日) 11:00～21:00 事前WEB予約制

目的・効果

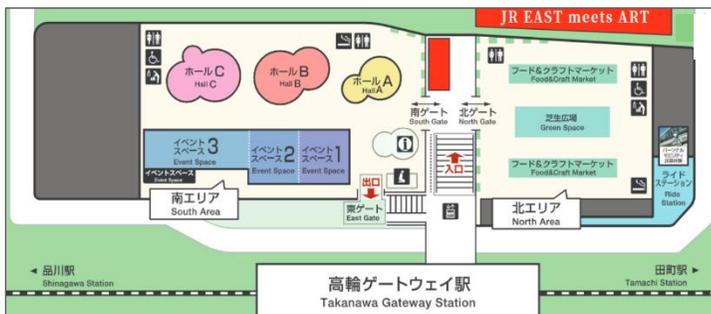
- ① コロナ禍におけるのアーティストの活動支援
- ② 「アート×ビジネス」の一事例としての実施・発信
- ③ 「サステナビリティ」「都市・開発」×アート等、新しい広がりの可能性を模索 (様々な場の活用を含む)



<展示風景>



こちらから作家略歴と
作品コンセプトをご覧いただけます▶



CVJ121 <実施場所>



<制作風景>

8. 東京藝術大学連携事業 連携講座 (1/2)

アートと社会、経済のかかわりに注目が集まるなか、日本の芸術系大学最高峰である東京藝術大学にCVJとの連携講座を設置し、文化芸術界／アーティストと社会⇄経済界の双方向の刺激・影響の場となることを目指す。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科の研究科長であり、藝大生の社会での活躍を後押しする取り組みで知られる音楽学部音楽環境創造科に所属する熊倉純子教授の協力のもと実施。

実施概要

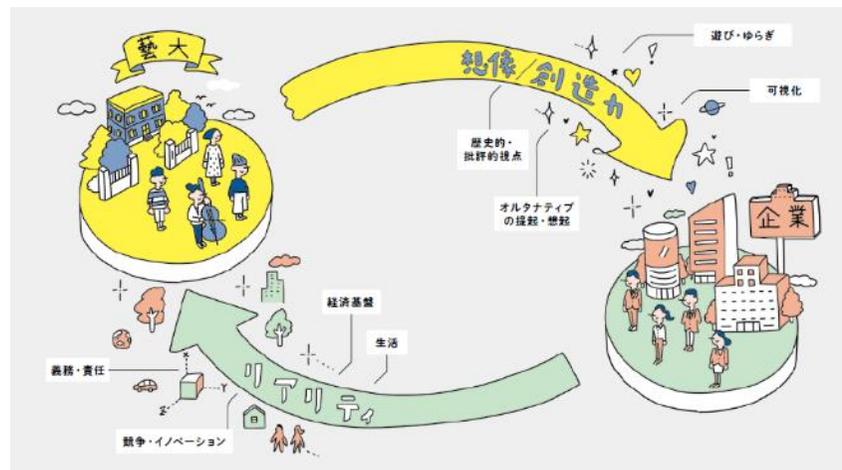
- 講座 「芸術と社会
-21世紀の社会が求める創造性とは(企業編)-」
- 設置 東京藝術大学音楽環境創造科
- 担当 熊倉純子教授
- 対象 全学対象(単位認定科目)、40名前後
- 形式 3日間の集中講義(レクチャー+ワークショップ+総括)

【2020年度】

- 開講 2020年度8月24日・25日・26日(オンライン)
- 講師 JR東日本、三井不動産、ヤフー、
基調講演:齋藤精一氏

【2021年度】

- 開講 2021年度8月23日・24日・25日
- 場所 東京藝術大学上野キャンパス 第2ホール
- 講師 カルチュア・コンビニエンス・クラブ、日本空港ビルデング
／羽田未来総合研究所、NTTデータ
基調講演:杉山央氏(森ビル)



講義内容

- ゲスト講師各社からの企業活動のレクチャー
- 社会における芸術家の役割に関する齋藤精一氏のレクチャー
- 企業からの課題へのグループワーク+プレゼンテーション
課題例)
 - ・おうち時間を楽しくする新しいサービスを考えよう
 - ・お客さまにとってエモーショナルな鉄道とは？
 - ・柏の葉における芸術のあり方を考えよ 等

◎芸術系の学生が異なる分野、業界を知り、他分野の課題に取り組むことで、芸術／芸術家の社会における新しいあり方や、多様な役割を、体験を通して学ぶことに貢献。

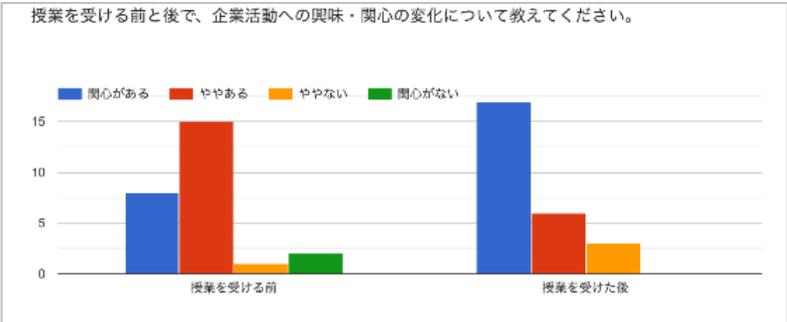
8. 東京藝術大学連携事業 連携講座 (2/2)

講義風景



講義に参加した学生の声

学生の発表(例)



- ・「企業が芸術に期待するものがわかった」
- ・「ビジョンを実現するべく企業が丁寧にビジネスを組み上げていく様子がわかった」
- ・「閉鎖的で伝統的な芸術界と違い、ビジネス界はどんどん新しいことにチャレンジしているんだと思った」
- ・「企業が何を大切にして、どう発展していこうとしているか学べた」

新しい鑑賞体験をあなたに
芸術鑑賞での言葉を用いた解説には限界があります。
言葉の枠組みを超え、映像やサウンドなどと組み合わせ、新たな鑑賞体験をしてみませんか。

9. <文化×経済> 美術展 特別鑑賞ツアー (1/3)

「文化×経済」をテーマにした活動の一つとして、2019年度に文化庁より受託運営した文化経済戦略推進事業(前述)の流れを受け、文化と経済の接点を創出すべく、企業の経営者層を対象とした「美術展 特別鑑賞ツアー」を継続実施中。経済団体(経済同友会・新経済連盟等)と連携のもと、幅広い分野の企業経営者をご案内し、文化芸術の理解者・支援者を増やすと共に、「文化と経済の好循環」を生み出すきっかけをつくることを目指す。

■ 2020年11月～12月 森美術館 STARS展:現代美術のスターたち—日本から世界へ

STARS展は、企業の経営層にとっても関心が高いコンテンツであるため、「新経済連盟アート同好会」の第一回企画として、また協働を重ねている「経済同友会スポーツとアートの産業化委員会」との連携視察ツアーとして実施した。

貸し切りの時間帯に約20名という限られた人数で、片岡館長の解説とともに、深くアートを鑑賞する機会となった。

新経済連盟ツアー 11月10日 閉館後18時30分～ 貸し切り <19名参加>

経済同友会ツアー 11月20日・12月8日 開館前9時～貸し切り <11月20日 22名参加、12月8日 23名参加>

STARS展について(会期:2020年7月31日から2021年1月3日)

超大物アーティストの作品が一堂に会し、大型インスタレーションや迫力の映像など、体感型の作品展示も行われる本展は、アートファンはもちろんのこと、現代美術初心者が日本の現代美術を体感する機会としても大変おすすめの企画。ビジネス界でも「アートを学ぶ重要性」やその効果が注目される今、世界が認める現代アートのトップランナーの作品をキュレーターの解説と共に深く鑑賞できます。国家的規模のイベントを控え、日本が世界から注目を集める今、日本のスター6名の初期作品と最新作をつないで見せる待望の展覧会です。

森美術館サイトより <https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/stars/index.html>



新経連 参加者の声 (一部)

●このような機会がないとアートに触れることがほとんどないので、素敵な機会を楽しませていただきました。ロジックの世界で生きている人間なので現代アートの価値がいまいち理解できていませんでしたが、館長が最後に仰っていた「意味のないものに意味を持たせることが現代アートである」という話が非常に印象深かった。自分たちの仕事にも同様のことが言えると思いましたので新たな気づきとなりました。また今回のような会がありましたらぜひお誘いください。

●とても楽しかったです。片岡館長の直々の詳しいご説明を聞きながらの鑑賞だったので、大変理解が深まり、作品の意図を吸収することが出来ました。やはり、芸術作品、特に現代美術は、解説があった方がいいですね。日本の現代美術家不遇の時代から、世界で認められるようになるまでの過程についてもお聞かせ頂き、とても勉強になりました。やはり先人の苦労があつての今ですね。

●当日、館長から直接各作品についての解説を受けることができ、ゆっくり作品を見ることもできて本当に贅沢なひとときを過ごすことができました。

9. <文化×経済> 美術展 特別鑑賞ツアー (2/3)

■ 2021年5月 Media Ambition Tokyo 2021

Media Ambition Tokyo (MAT)とは 世界最高峰のテクノロジーアートの最先端に触れることができる芸術祭であり、特にテクノロジーに関わる分野の企業を中心に関心が高いコンテンツであるため、CVJ関係の企業経営者・新経済連盟会員企業を対象に5月19日に解説付き特別ツアーを実施。

今後のMATの発展・展開も視野に、MAT代表の谷川じゅんじ様(CVJアドバイザー)の丁寧な解説のもと、未来について考える貴重な機会になった。



Media Ambition Tokyo 2021 について (会期:2021年5月12日～6月8日)

URL: <http://mediaambitiontokyo.jp/>

Media Ambition Tokyo (MAT)とは 世界最高峰のテクノロジーアートが集結する、オンライン×リアル「ハイブリッド芸術祭」です。MATは、過去8回にわたり、六本木をはじめ、渋谷、虎ノ門、代官山、銀座、飯田橋、御茶ノ水、台場、丸の内等、都内各所で同時多発的に展開してきましたが、昨今のコロナ禍により開催方法を再検討し、本年は、オンラインとリアルを組み合わせたハイブリッド展示として展覧会を構成しています。これまで実現の難しかったジャンルやカテゴリーを越えたマッチングで自然や伝統を新たな視点や表現で再構築、日本の未来像を国内外に発信するプラットフォームとして成長し続け、本年は文化庁「日本博」と連動し、東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成とテクノロジーアートを新たな日本のレガシーとして昇華、国内外へ発信していきます。感染拡大防止に十分な配慮を行いながら、リアルな空間体験を提供するよう、六本木ヒルズでは実際の展示が展開され、オンライン(バーチャル)のメリット、実空間(リアル)のメリットを活かし、最大限の相乗効果と化学変化を生み出します。



<展示風景(左より)>

笠原俊一 × Kezzardrix × 比嘉了 Fragment Shadow / 小野澤 峻 演ずる造形 / 落合陽一 物化する地平線

9. <文化×経済> 美術展 特別鑑賞ツアー (3/3)

■ 2021年7月、2021年12月 森美術館 アナザーエナジー展 特別鑑賞ツアー

森美術館のご協力のもと、片岡館長に下記の展覧会をご案内いただいた(閉館後に貸し切りで実施)。

今回は展覧会のテーマから女性経営層に多くご参加いただき、日本の抱える社会課題の一つ「女性活躍」についても考えるきっかけとなった。

ツアー後に実施した意見交換では、「展覧会の入り口ではあったアンコンシャスバイアスが、でるときにはなくなった」「作品を解釈する力も経営と同じではないかと思った」などの感想をいただくとともに、「企業による美術館の活用方法、連携&支援の在り方」等についても、意見交換が行われた。

●新経連との連携

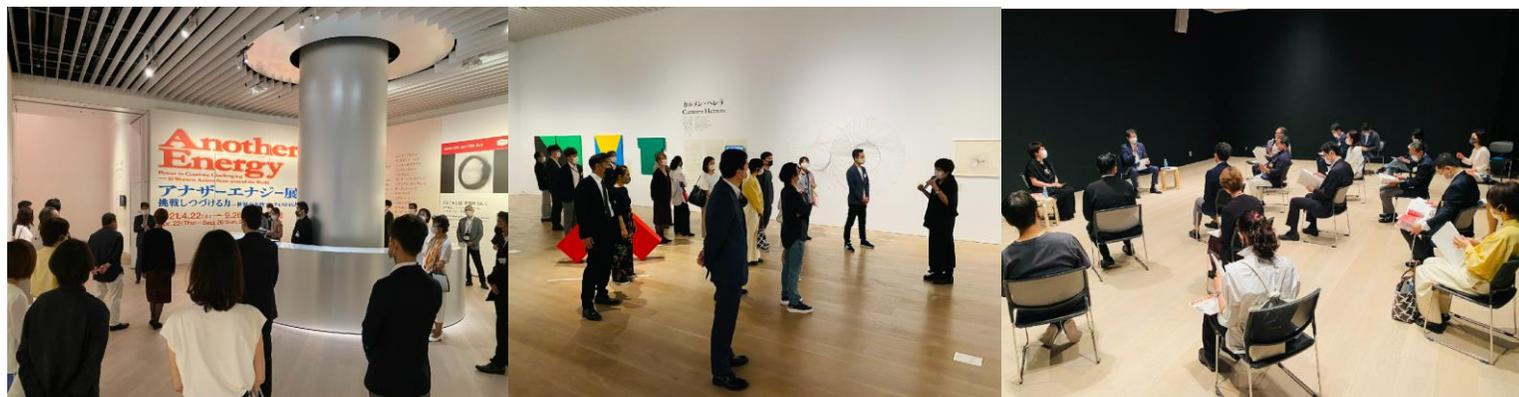
日時:2021年7月20日

参加者数:19名

●経済同友会との連携

日時:2021年12月21日

参加者数:26名



※アナザーエナジー展について (会期:2021年4月22日～9月26日)

URL:<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/anotherenergy/>

近年、ジェンダー、人種、民族、信条など多様なアイデンティティの不均衡を正し、ダイバーシティ(多様性)を重視する動きが世界各地に広がっています。現代アートにおいてもこの10年ほどの間、1950年代から70年代に活動を始め今日まで継続してきた女性アーティストたちに注目が集まっています。「アナザーエナジー展」では、世界各地で挑戦を続ける70代以上の女性アーティスト16名に注目し、彼女たちの活動に光を当てます。

16名の年齢は71歳から105歳まで、全員が50年以上のキャリアを積んでいます。

また、その出身は世界14ヵ国におよび、現在の活動拠点も多岐にわたります。彼女たちは、それぞれが置かれた環境や時代の変化のなか自らの信念を貫き、美術館やアートマーケットの評価にとらわれることなく、独自の創作活動を続けてきました。本展では、絵画、映像、彫刻、大規模インスタレーションにパフォーマンスなどの多彩で力強い作品をとおして、長いキャリアのなか、ひたむきに挑戦し続けてきた彼女たちの特別な力、「アナザーエナジー」とは何かを考えます。世界が未曾有の事態から復興しようとする今、彼女たちが変わらぬ信念を貫き生涯をかけて歩みを続けている姿は、私たちに挑戦する新しい力を与えてくれることでしょう。



10. ART COLLABORATION KYOTO

京都府はアーティスト支援の施策として、若手表彰事業(京都府新鋭選抜展)、若手作家の自立支援(ARTIST'S FAIR KYOTO)を行ってきたが、アーティストのさらなる活躍には、国内のアート市場の小ささが障壁の一つとなっている。その打開策として、最高峰の現代アートが集うアートフェア「Art Collaboration Kyoto」の実施を決めた。国内最大のアートフェア東京から現代アート色＝現存作家の活躍の場が減じていく傾向にあるなか、アートバーゼルのような現代アートの発信拠点を日本につくり、市場形成からアーティスト支援に繋げようという意欲的な展開である。CVJは、本事業の実行委員会に加わり、民官連携で国際的にプレゼンスのあるアートフェアを目指そうという本事業に、主に民間企業との連携面で協力していく方針である。

概要:

- 会期 内覧会:2021年11月4日(木)、一般公開:11月5日(金)～11月7日(日)
- 主催 実行委員会
(京都府、京都文化交流コンベンションビューロー、日本現代美術商協会[CADAN]、日本現代美術振興会[APCA]、京都商工会議所、カルチャー・ヴィジョン・ジャパン)
- 会場 国立京都国際会館
- 来場 13,000人程度(サテライト含む・集計中)
- 助成 令和2年度 内閣府 地方創生推進交付金活用事業
令和2年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
- 協賛 三菱地所、BOLD、SGC、野村HD、マツシマHD、静岡銀行など
- 特徴
 - ・日本のギャラリー30前後が国外のギャラリーをホストし、日本:海外が半々の国際色の強いフェア
 - ・日本のアートギャラリーを牽引する協会、関西APCAと関東CADANの全面協力による
 - ・寺社仏閣など、京都ならではのユニークメニューの展示も検討し、街全体を使ったアートイベントに

- ▶VIP、出展ギャラリー、一般来場者、協賛・協力各社など、全方面から好評
- ▶来場者数、出展ギャラリーの売上、共に想定を上回る結果に
- ▶国内メディアのみならず、国外メディアでも紹介

⇒ 2022年度も継続開催に向け準備中。

